

1995年8月10日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
2024年2月14日発行SSKS通巻第8941号 風の子便り

SSKS

風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

2024年 2月号

おかえりなさい掛橋さん。
4カ月ぶりの風の子復帰だね。
相棒の田中くんも喜んでるよ。
二人の楽しい漫才を、
また披露してね。

企画でござる

メンバー 田中 聡

1月6日(土)企画会議

風の子便り(会報)1月号の会報読み合わせと2月号の締め切り日について行いました。読み合わせでは、いつもカラーページをどのページにするかで模索をして、今回「所長のため息」をカラーページにという意見が出たのですが、残念ながら叶えられませんでした。その結果今月のカラーページになるのは「工房ぷらす」と「今月のショットショット1」と、「風の便り」と「懐かしのアルバム」に決まりました。2月号の締め切りは、1月31日(水)です。

1月20日(土)企画会議

風の子便り(会報)2月号の中間報告と「風の便り」について話し合いをしました。「風の便り」とは、普段風の子でお世話になっているボランティアさんや、元職員さんに風の子への思い出や日常生活などを語って書いてもらう「コーナー」で、これからどの方に書いてもらうか話し合いをしました。書いてもらえる方が少なくなっているため、どう補強をするか担当者から話が出ました。書いてもらえる方がいなければ、休載しても良いことになりました。

夕会報告

報告者：柳川 敬事

12月23日（土） 夕会報告（概要）

司会：信高 補助職員：井出 書記：石黒

12月23日土曜日、風の子会で夕会がありました。司会は信高さんです。サポート職員は井出事務長さんです。①KYBさんの話です。風の子会の職員、岡本さんが冷蔵庫について説明しました。「冷蔵庫は高いです。」皆さんに意見を聞きました。皆さんは答えられませんでした。すると、田中先輩が工房の皆さんに質問しました。「新しい冷蔵庫、欲しいの？」

風の子会職員、小林さんが答えました。「冷蔵庫は考え中です。」②レイアウトの話です。井出事務長さんから提案がありました。私のところに工房の道具を置く予定です。来年、私と廣瀬さんの席が代わるかもしれません。③外に出ようです。スクリーンと映写機を使って外に出ようの候補地を説明しました。3つの場所が決まりました。1つ目は羽田空港です。2つ目は横浜です。3つ目は高いところから東京を見ようです。候補地は1月13日の夕会で決まります。

1月13日（土） 夕会報告（概要）

司会：田中 補助職員：岡本 書記：石黒

1月13日土曜日、風の子会で夕会がありました。司会は田中先輩です。テーマは3つです。田中先輩は皆さんに聞きました。1つ目は買い物ミッションと2月の散歩です。メンバーの小野塚さんから提案がありました。「猫カフェに行きたい」

井出事務長さんから「猫カフェには好きな人と嫌いな人がいます。」話を聞いて、小野塚さんは納得しました。買い物ミッションは普通にやる。2月の散歩は希望者でやります。2つ目はKYBさんの話です。候補の物は3つです。印刷機の消耗品、冷蔵庫、スピーカーマイクです。メンバーの朝生さんが冷蔵庫についてプレゼンしました。「新しい冷蔵庫、欲しいです」皆さんが手をあげました。多かったのは冷蔵庫です。今年、風の子会で買う物は冷蔵庫に決まりました。人気のなかった冷蔵庫が決まり皆さん、驚いてました。3つ目はレイアウトの話です。風の子会職員木村さんがホワイトボードを使って、レイアウトの説明をしました。

☆ ひとり言 ☆

～ メンバー、職員が日々の生活で思ったことを語るコーナー ～

風の子に来る前はテレビのマラソン中継を観るのが好きだった。何故なら外の景色がたくさん見れるから。特にびわ湖マラソンは景色が良くて好きだった。

メンバー 太田 稔

しいたけが嫌いだ。匂いが嫌いだ。味が嫌いだ。食感が嫌いだ。見るのも嫌いだ。吐き気がするほど嫌いだ。全世界から抹殺したいほど嫌いだ。しいたけが、とにかく嫌いだ（でも松茸は大好きだ）。わたるの嫌いな食べ物列伝その1

メンバー 小野塚 航

毎年、僕のお正月は家で朝からお酒を飲み、焼いた鯛を一匹食べ、母が作ってくれたお雑煮も食べ、クワイの煮物も食べ過ごしています。クワイってなぜおせち料理しか食べられないのかなあ??一年中食べたいなあと思ってしまいます。

この度は、能登半島で震災が起きました。お見舞いを申し上げます。

メンバー 田中 聡

古池さんはいつ戻ってくるの?（古池さんがコロナ陽性になったのを聞いて）

メンバー 福島 基予子

諏訪です。10年ぶりに風の子に復帰しました。皆様よろしく申し上げます。

職員 諏訪 敏子



GO! GO! 川柳～第10回～

元日や 能登半島は 震度7
駅伝に 一喜一憂の お正月

メンバー 小熊 健 作

次回は信高さんです!

風の便り

「2023年度 外に出よう」に参加して

東京赤坂ロータリークラブ
2022-2023 奉仕プロジェクト委員長
関 陽一

2023年5月、会員家族を含む合計9名で参加させていただきました。当日は天気も良く暑くもなく寒くもなく、春陽と緑の香りを全身に浴びながら、爽やかな汗をかくことができました。慣れない私たちに車椅子を預けていただいた皆さんには幾ばくかの恐怖と不安を感じさせてしまったかもしれませんが、事故もなく終えることができ安堵しました。

私たちロータリークラブは親睦と奉仕を掲げているので、なんらかの奉仕活動の実績を残したいという気持ちが少なからずある一方で、善意の押し売りになっていないのか、本当に役に立っているのか、という思いがあります。参加して思ったのは、誰かが車椅子を押さないと動けない、階段は運ばないと上り下りできない、トイレでは両脇を抱えないといけない、そのために（たった1日だけですが）体を動かして一緒にご飯を食べて会話して笑い合う、それに比べたら理屈とか理念とかは些細な事ということです。

改めて、参加させていただきありがとうございました。



1995年8月10日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
2024年2月14日発行SSKS通巻第8941号 風の子便り



☆ 風の子水先案内 ☆

～ 2024年1月の出来事 ～

◎運営委員会(1月10日)

○コロナ関連報告

●コロナ感染報告

12月18日、メンバー1名感染。自宅療養期間を経て27日実習所復帰。

→同居家族の抗原検査の使用推奨を再徹底する。

●コロナ検査体制

職員の毎週抗原検査は引き続き行う。

メンバーの毎週PCR検査は3月末で一旦終了。

以降は連休明けや行事後など、

感染が危惧される時期にのみ行う。

●コロナ5類以降の感染予防対策

）実習所内の換気を再徹底する(窓を開けて換気をしつつ室温20度を維持)。

）実習所内の二酸化炭素濃度は800ppmを警戒値、500ppmを目標値とする。

）マスク、消毒、パーテーション等、日常の感染予防対策の徹底。

○ノロウイルス対策

ノロウイルス感染が発生した際の対応について、保健師の桜井さんが説明した。

○職員募集状況

1月17日から諏訪さんが非常勤職員として復帰した。

○備蓄品について

大規模災害発生時の備蓄品の過不足について、再確認と再検討をした。



◎模様替え(1月20日)

○実習所内の寒さ対策として、メンバーの席の配置換えを試みる事にした。動き回れる工房メンバーを窓側に、パソコンに向かいっぱなしでいる企画メンバーを内側に、みんなができるだけ快適に



過ごせるようにという配慮の上での模様替えだ。みんながどう感じたか…それは見てのお楽しみ！！

◎歯科検診(1月20日)

○アキラ歯科さんが来所して歯科検診を行ってくれた。歯は健康にとって大事な要素だ。いつも来てくれて、アキラ歯科さんありがとうございます。



◎おかえり！

○長く療養していた掛橋さんが風の子に元気に復帰した。掛橋さん、これからも風の子をずっと楽しんでください。

文責 運営委員・小野塚



イラスト作・文 メンバー 廣瀬 依生

1月6日（土）工房会議をしました。

決まった事は三つです。

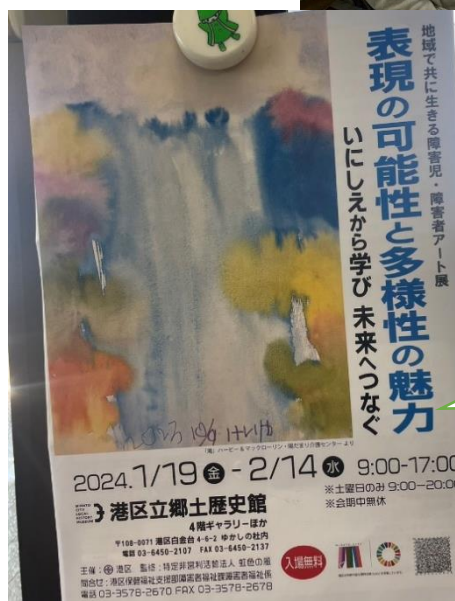
- ① 障害者アート展にちぎり絵の作品を見に行くか、
- ② 来年に向けて作品を作り始めるか、
- ③ ハガキの材料を保管のための冷蔵庫を購入希望するか、話し合いをしました。

結果は、①見に行く②作る③購入に決まりました。

作品はどんな感じになるか今からドキドキしています。私も皆で参加したいと思います♪



話し合いをしました。



障害者アート展ちぎり絵の
日時のチラシです

風の子・なつかしのアルバム



2010年に節分の日に鬼を作りました。
みんなで豆をぶつけて楽しみました。

yuki

12月のショットショット

作 三木 直人

※メンバーが散歩を楽しんでいる写真5枚と夕会の写真1枚を選んでみました



楽しかった！！



一年のお礼詣で



12月のショットショット
散歩2枚&夕会の司会をしている写真1枚



楽しかった！！



12月の司会の
信高さん



特別寄稿

能登半島大地震と障害のある人の支援

ボランティア 岡本 明

今年はおめでたいはずの新年に、能登半島の大地震（「令和6年能登半島地震」という名前が付けられました）、羽田空港での飛行機事故と、痛ましいことが連続して起こってしまいました。1月1日16時10分ごろに発生した最大震度7の大地震では多くの方が亡くなりました。この原稿を書いている1月29日現在、石川県の亡くなった方は、災害関連死を含めて238人です。

地震発生から約1か月が過ぎ、小中学校などが再開され、能登空港が開港するなど、少しずつ復興してきていますが、被災した方々の大変な状況はまだまだ続いています。とくに障害のある人は大きな困難に直面していると思われ、発生直後から県や市町村や各障害者団体などが支援活動を行っています。例えば視覚障害の人については、視覚障害関連団体や日本盲人福祉委員会が、眼科医や歩行訓練士などの専門家を中心とした数名の支援員を現地に派遣し、情報提供、相談、災害関連死防止対策、必要物資の支給、移動の支援などを行っています。私も支援委員会のメンバーとして関わっていますが、高齢、腰痛などで現地には行かず、もっぱら自宅からの情報提供などの後方支援にあたっています。情けない話で、現地で苦勞している仲間のことを考えると忸怩たる思いです。

しかし、道路・交通機関がまだ復旧していない、雪や凍結に慣れていない運転は危険、障害のある人のリストがなかなか得られないなどから、かなりの苦勞があります。被災者がどこに避難しているか分からないことも多く、とくに障害のある人の場合、トイレなどが使えない、大声を出すので周囲に迷惑がかかる、などで避難所では生活できない人もあることは、皆さんもご存じのことと思います。

また、支援の際には現地の行政や障害者団体との連携が大切なのですが、お互いの立場の違い、認識の違いなどあって、支援の内容や方法などの合意に時間がかかってしまうという状況もあります。そのような中で、支援は一定の成果を出せてはいますが、状況は刻々と変わっています。この風の子便りが出るころにはさらに成果が上がっていることと思います。

ところで、東日本大地震、熊本大地震などのときにもそうでしたが、今回も支援の困難さの原因の一つに、障害のある人の多くが障害者団体などで把握されていないことがあります（行政にはデータがあるのですが、個人情報保護の

点などから、なかなか開示されません)。例えば、石川県には約2,000人の視覚障害の人がいることが推計されていますが、障害者団体などで把握できているのはおそらくその2割くらいかと思われます。ほかの障害者関連団体もあまり変わりません。このような状況はできるだけ早く改善する必要があります。

どこにだれが避難しているかが分からないという問題も、避難状況が刻々と変わっていることや、住民が自分たちで集まって避難生活をしている「自主避難所」（自宅、車中泊、近隣の建物など）にいる人もあるため、なかなか正確に把握できません。例えば、現地支援員からは、「避難所の正確な住所が把握できず、見つけるのに苦労した。雪道で登れず行けなかった避難所もいくつかある。訪問しても、別の避難所にいたり、視覚障害の人はいないとなっても実際には避難者がいたところもあり、訪問してみないと分からなかった。自宅避難中の当事者の情報ももらったが、そこに行く道が入れなかった。」などの報告が寄せられています。

ところで、今回支援活動をしていて分かったのは、災害時の避難というのはかなり複雑な仕組みになっていることです。例によって、用語も紛らわしくて混乱します。ちょっとおさらいしてみましょう。

多くの場合、被災者は直後にいったん近くの「一時（いつとき）集合場所」に集まります。これは行政がその場所を指定するのではなく、その地区の自治会などで場所を指定するものです（あるいは、指定なしに任意の場所に集まることもあるでしょう）。それから「一時（いつとき）避難場所」という、危険から逃れるためにまず避難する公園や校庭などの広い場所に移ります。これらは宿泊、生活するところではありません。そして次には「一次（いちじ）避難所」に移ります。その際、いったん「1.5次避難所」（高齢者や障害のある人、妊婦、乳児などとくに配慮が必要な人が「二次避難所」に移るまでの一時的な受け入れ先）を経ることもあります。一時（いつとき）、一次（いちじ）、避難場所、避難所など似た言葉があって分かりにくいですね。

「二次避難所」は「福祉避難所」とも呼ばれ、高齢者や障害のある人のうち、一次避難所で避難生活を続けることが困難な人を優先的に避難させるための施設です。

そののちに、自宅が修理あるいは再建できた人は自宅へ戻る、自分の住宅を持たない人は「仮設住宅」（行政が貸与する）へ移る、などとなります。

なお、先に書いた「自主避難所」は、本来は「大きな台風、洪水などが発生する懸念がある場合、避難情報等の発令がないときでも、発生する前に避難を希望する人を対象に開設する一時的な滞在施設です。しかし今回の災害では「自主避難所」とは、災害発生後に地域の人が自主的に開く避難所を指しています。これは行政に登録すれば指定の避難所になりますが、登録していないところも多く、行政もすべては把握できていません。

以上、ごく簡単に（簡単でもないですが）まとめてみましたが、実際には県、市町村でその名称も異なっていたり、災害の分類ごとに行政から指定されていて、複雑です。例えば港区では、「一時避難場所」は「区民避難場所」、「一次避難所」は「区民避難所（地域防災拠点）」、「二次避難所」は「福祉避難所」、などという名前です。自主的に開く避難所については決められていません。さらに、「広域避難所」や「地区内残留地区」などもあります。分かりにくいですが、ぜひ港区のホームページ「港区防災地図」などを見て、避難の方法、場所などを理解しておいてください。

<https://www.city.minato.tokyo.jp/bousai/bosai-anzen/bosai/daishinsai/b-map/r030301.html>

これを書いていた28日朝、東京でも震度4の地震がありました。他人ごとではないですね。

☆風の子の部屋☆

～メンバーが思いのままに綴った、ちょっとした小話のコーナー～

僕の好きな作家

メンバー 太田 稔

僕は本当に好きだ。山本周五郎が本当に好きだ。読んでて涙が出てくる。一番感動したのは「樅の木（もみのき）は残った」。みんな悪い人だと思っていたけど、みんないい人だった。樅の木が残ったで僕が山本周五郎が好きになったのは母がこれは絶対良いからと読んでみなと言われて読んだら
はまった。

会いたいぐらい山本周五郎
が大好きなの。

井出さんに山本周五郎を
読んでもらっている太田さん



賛助会(寄付)のお願い

令和5年度賛助会実績（2月3日現在）81件 6,809,000円

引き続き、賛助会・寄付を募集しています。手続きは、下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

連絡先：特定非営利活動法人 風の子会
TEL：03-6809-4001
メールアドレス：kazenoko@kazenokokai.or.jp

所長のため息

12月号で、外に出よう実行委員会が発足したことはお伝えしましたが、年明けから会議を開いたり、下見に行ったりと動き出しました。

みんなにやいやい言われながらも頑張っています。詳しいことが決まりましたら また会報でお伝えします。

遊んでいるわけではありません！ちゃんとした下見です。（渋谷スカイにて）



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

企画編集メンバー

太田 稔	信高 正義
小熊 健	広瀬 依生
小野塚 航	三木 直人
島田 龍司	柳川 敬事
田中 聡	幸 高史

表紙デザイン：小野塚 航

編集人：【高浜生活実習所】生活介護
〒105-0022

東京都港区海岸2-6-29 平成海岸ビル5階

TEL 03(6809)4001

FAX 03(6809)4002

HP：<http://www.kazenokokai.or.jp/>

e-mail：kazenoko@kazenokokai.or.jp

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷3-1-17

ヴェルドゥーラ祖師谷102



ギャラリー

風の子

No.27

クマと私海島で釣りをする

昔、父と私は、釣り堀に良く行っていました。今度は、私と、くまで釣りをしたくてイラストレーターに作って描いてみました。

廣瀬依生

